



<http://www.jaaso.or.jp/>

JA あそだより

平成26年1月

明けましておめでとうございます



阿蘇外輪から臨む「初日の出」



2014
新年

VOL. 72

■今号16ページ主な内容

- 新年のご挨拶 代表理事組合長 工藤 保雄
- JA熊本県青壮年部大会／JA阿蘇女性部フォーラム
- 生産各部会の出荷・査定会・生育状況
- あそっ子スクール、阿蘇ウォーキング、地域イベントほか「JA阿蘇の話題」満載！

●/人 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111 / FAX 0967-23-1088

新年のご挨拶

JAの「10年後のあるべき姿」を
長期的テーマに「つながりあう協同」
「支所を核とした協同」実践の年阿蘇農業協同組合
代表理事組合長 工藤 保雄

新年、明けましておめでとうございます。

組合員の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、JA事業に対し深いご理解とご支援を賜り、役職員を代表致しまして心よりお礼申し上げます。

今日の農業、農村そして地方を取り巻く状況は依然として厳しいものであります。特に政府、与党が聖域を守ると約束してきたTPP交渉は、十分な情報開示がなされないまま、年内妥結に向けて前のめりな姿勢に憤りを感じます。

また、あまりにも拙速に示される5年後の減反廃止等の新しい農業政策は真摯に、国の政策を守ってきた我々にとっては、落胆のするものであります。しかし、将来に向けた政策の確立については、地域の実態や品目特性に応じた新たな総合的農業政策（日本型直接支払制度等）を勝ち取らなければなりません。

また、本年はJAの「10年後のあるべき姿」を長期的にテーマと位置づけ、「つながりあう協同」「支所を核とした協同」の2つを実践軸に向かう3年間の取組みを具体的に進める実践の年であります。組合員の世代交代に対応し、次世代をはじめ多様な組合員、地域住民等が集い、協同運動に参加することで、それぞれのニーズが実現し課題が解決され、農業づくり、地域づくりが進まなければなりません。

尚、昨年の不祥事を受け止め組合員はもとより地域住民や利用者の方々の信頼を回復するため、コンプライアンス研修等、様々な課題に取り組んでまいりました。本年も尚一層、気を引き締めこのことに精進するとともに、選ばれるJAを目指し積極的な事業活動を図っていく所存であります。役職員一丸となって取り組んで参りますので、皆様の更なるご支援とご協力の程よろしくお願い致します。

年頭にあたりまして、組合員の皆様のご健勝とともにご家族の皆様にとって良い一年になりますことを祈念致しまして新年のご挨拶と致します。

農業への熱い思いを訴える「JA熊本県青壮年部大会」開催

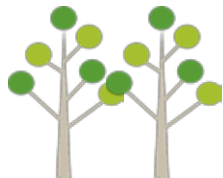
盟友の主張＝渡邊秀樹さん
組織活動実績発表＝一の宮支部



関係者ら約330人が参加した県青壮年部大会

熊本県農協青壮年部協議会（県青協）の平成25年度大会が10月15日、県民交流館パレアホールで開催された。同大会は自立農業経営の確立や豊かな地域社会を築くために、青壮年部盟友が相互研鑽し、組織がさらに発展することを目的に毎年開催されています。当日は県下11地区の青壮年部盟友ら関係者約330人が出席、JA阿蘇からも支部長・盟友33人が参加しました。

盟友の主張の渡邊さんは惜しくも最優秀賞には届きませんでしたが、堂々とした発表で「優秀賞」に輝き、参加した盟友からも高い評価を得ていました。また組織活動実績を発表した一の宮支部も「優良賞」を受賞。代表の田端伸吉さんは「緊張しましたが、やりきったのでとても満足しています」と笑顔で話していました。



大会会場でのJA阿蘇青壮年部の盟友の皆さん

平成25年度熊本県青壮年部大会
盟友の主張 優秀賞
たつた一人からの挑戦

JA阿蘇青壮年部 長陽支部 渡邊 秀樹



私は、JA青壮年部前支部長のご紹介で今年青壮年部に入りました。青壮年部では、農家の方々の多くの知恵や経営方法などを学でいきたいと思っています。そして本日、このような機会を与えていただいたことを嬉しく思います。これから私の顔を見かけた際には、どうぞお気軽にお声を掛けていただくと幸いと存じます。

さて私は1995年農業大学を卒業後、一旦南阿蘇を離れ熊本県経済連に就職しました。2008年1月に本格的に農業を行いました。2008年1月に本格的に農業を行いました。米を栽培する実家に帰省した際、多くの方からよく言われたのが「何で経済連は辞めたのね」「農業はたいがい大変ばい」という言葉でした。農業って、そんなに魅力のないものなのでしょうか？自問自答の中、私の思い描く農業

をやってみようと農業を始めました。阿蘇の特性を最大限に生かした、他にはまねの出来ない産地メリットを出せる農業です。

阿蘇の特性、豊富な湧水や冷涼な気候を生かした作物を作付し、優良な品物を消費者に提供すること、阿蘇の環境を利用したランニングコストを抑えた、低コスト農業です。この目的を元に辿り着いた作物が水耕カラー（花き栽培）でした。

当時阿蘇地域では、生産者が途絶えていた為、自らパイオニアになるべく、1a程のビニールハウスを自分で建て、研究・実証栽培を行いました。始めた当時、海外産のカラーの球根を200球ほど購入し定植しましたが、活着したのは購入した球根の半分程で、そこから試行錯誤の毎日でした。

2年間の球根の育成期間を経て、2010年1月に15aの耐候性ハウスを建て、全3品種で栽培を開始し、同年12月に市場へ初出荷を行いました。その結果、品種別に1本 50円、100円、120円でした。通常、カラーの平均的な価格は1本 30円、50円という中で、平均的な価格以上の結果を得ることが出来ました。その後、ひとつの品種1本50円の単価が上がらない原因を調査した結果、カラー農家の多くが栽培をしている品種であり、市場に大量に流通している為、単価が上がらないことが分かりました。

現在は、熊本県が品種改良した新品種を経営の軸とし、規模も5a増やし、全体20aで

栽培を行っています。

ここまでが、私がカラー農家になろうと思った経緯と私の経営内容です。ここからは、私が栽培・採取・出荷においてこだわっている点をお話したいと思います。

最初に栽培において私がこだわっている点は、花の背丈を伸ばすということと、1株当たりの切花本数を上げることです。まず何故、花の背丈を伸ばすのかというと、1本の長さが10cm違えば、単価が30円と50円違うからです。花の背丈を伸ばすには、ハウスの流水と湿度が関係していると、私なりに分析した結果、花の背丈は90cmと120cmと安定し、今年の平均単価も1本136円と安定した高価格を維持することが出来ました。尚、1株当たりの切花本数ですが、このことはまだ確立しておらず、安定した切花本数が切れるように日々調査・研究しなければならないと思っています。

次に、採取の際は細心の注意が必要で、花同士が触れただけで花ピラに傷が入り、日数がたつにつれ傷の入った部分から、茶色くなり花もちも悪くなります。そこで面倒ではありますが、より丁寧に取り扱うよう2人1組で採取し、採取する担当、運ぶ担当と分業制を徹底しています。又、花が開かないと予測されるもの、傷の入りがあまるものについては、採取後に粗選別を行い廃棄処理しています。

そして出荷の際は、二段階選別を行い規格・品質保持に至るまで徹底した管理を行っています。

す。この出荷に適合した規格をそれぞれにまとめ、管理倉庫内の温度をチェックし、花の開き具合に応じ出荷しています。また、私の出荷は主にダンボールで出荷していますが、ダンボール内に混載をせず、花同士がぶつからないよう細心の注意を払い、運搬中に荷崩れないよう考慮しています。

ここで規格・品質にこだわる以上避けては通れないのが、この管理選別から外れた品物（規格外品）をどうするかということです。そこで私は、小売店のテナントで販売させてもらう為に、カラーのPRとサンプル商品を自ら持参し何度も営業に出向きました。その結果、現在では5店舗の小売店で出荷が可能となり、規格外品はこのルートを利用し販売しています。

阿蘇のカラーを産地化する取り組みが、2013年4月に、熊本県・JA・市町村を関係機関とし、阿蘇地区湿地性カラー研究会が多くの方々のご協力により発足しました。この研究会は栽培技術の向上、経営の安定及び産地化を図ることを目的としています。目的が果たせるよう会員皆で取り組んでいきたいと思っています。また、この研究会には、目的に共感するJA阿蘇の青壮年部員が数名加入しており、多くの議論、検討を重ね、研究会発足後にカラー栽培を始めた方もいらっしゃいます。

カラー研究会の発足にあたり、私がカラー農家になろうと思った当時のことを振り返り

ました。カラーの球根は高価で品種も限られ、主に海外からの輸入品が主流で、海外産のせいか私の栽培管理が悪かったのか、高価で球根を購入し定植しても活着したのは購入した球根の半分程でした。そして、ハウスの導入ですが1a程のハウスを自分で建てれば10万程度の資金投入で栽培が可能でした。何故、私が1aという小規模面積での栽培から始めたかという、農家の経営を圧迫するのは初期投資金額で、高額な投資をしても必ず成功するとは限らないからです。小規模の投資で時間も手間も掛かりませんが、農家自身が今営んでいるメインの経営（野菜栽培や花き栽培等）を営みながら、カラーは球根ですので栽培環境が適していれば、1年と2年で10倍、20倍に増殖し農家自身での規模拡大が可能です。

しかし、小規模でカラーを栽培してもカラーの球根は限られた品種の海外産にするのか？という問題が残ります。色々考えた結果、私の栽培するカラーを球根ではなく、苗でカラー研究会のメンバーに供給することにした。同じ阿蘇地区で栽培された苗であれば、他の環境から持ってきた苗に比べて活着率も上がるのではないかとということも考えました。もうすでに、今年6月から苗の栽培は始まり、先月9月には各農家へ苗を供給しました。各農家小規模の作付けとなりますので、一気にとはいきませんが生育環境の整った農家から順に出荷して行く。一歩ずつではありますが産地化に向けた取り組みがスタートし

ました。

阿蘇の特性を最大限に生かした、他にはまねの出来ない産地メリットを出せる農業。私がい描いた当初はたった一人からのスタートでしたが、現在は、熊本県とJAのサポート、青壮年部とカラー研究会会員という仲間に出会いました。この出会いは必然であったと思います。私一人がどんなにいても、さざ波程度の波しか立ちません。きつと固定概念にとらわれ、小さな枠の中で満足していたことでしょう。

青壮年部とカラー研究会会員の年齢層は幅広く、これぞまさに温故知新。長年農業に携わっていらつやった経験豊富な知恵とエネルギー溢れる若手の斬新な発想や機敏な行動力の融合。カラーの花イコール阿蘇を目指すにはどちらも必須で、同じ志を持つ多くの仲間が力を合わせた時に大きな波となり、飛躍すると私は信じています。そして最後に、何事も思い描き行動に移してみることこそが、夢を現実にするのだと私は思います。私の挑戦はまだまだ途中岐路です。



「盟友の主張」発表の渡邊秀樹さん

『組織活動実績』優良賞

盟友の力

JA阿蘇青壮年部
一の宮支部 田端 伸吉

災害とは、何時如何なる時に起こるか分からない。その事をも身を持って感じる一年でした。昨年の九州北部豪雨（7・12水害）で阿蘇市の災害復旧ボランティアとして、参加して頂いた県内の盟友の方、誠にありがとうございました。今年も実りの秋を迎える事が出来、被害農地の7割に水稻や施設野菜の植え付けを行いました。本当にありがとうございました。

私達、JA阿蘇一の宮支部は「緑いきづく火の神の里」阿蘇五岳を中心とする世界最大級のカルデラや広大な草原を有し、比較的平坦地の多い阿蘇谷と、起伏に富み傾斜地の多い阿蘇外輪地域で形成されています。また、この地域は阿蘇くじゅう国立公園に指定されており、ハナシノブやスズランなど阿蘇特有の希少な植物が自生するなど、自然資源が大変豊

富です。気候は年平均気温が約13℃で、年間降水量は約3000ミリです。

四季を通じて比較的冷涼で多雨な地域であるため、平坦地では稲作を中心とした農業が盛んで、また、山間地では高冷地野菜の生産に取り組んでいます。

この町は東西に国道57号線が通り、別府市に向かうやまなみハイウェイの出発地点があり、1200年の長い歴史を誇る阿蘇神社や町のいたる所で名水が湧き出る、まさに大自然の恵みを受けて農業を営める町です。

盟友の経営は多岐に亘り、「阿蘇王」で有名な赤牛や黒毛和牛の畜産、イチゴ、アスパラガス、トマト等の施設園芸や、花卉、製茶業、そして阿蘇コシヒカリを主とした稲作。いずれも、阿蘇特有の寒暖の差と美しい水に恵まれたおいしい作物をJAに出荷し、消費者にも高い評価を得ています。

10年前1000人程いた盟友も、近年の米価変動やその他の農産物の価格低迷と各種資材の高騰で後継者不足を生み、農家の高齢化は集落営農、又は農業経営の大型化が行われ、私が青壮年部に入部した当時に比べだいぶ様変わりしてきました。特に4～5年で盟友数が大幅に減少し現在は54名で活動を行っています。しかも、デフレによる景気低迷で支部活動費は削られ、活動費を増やすための新規作物の栽培などを企画しても盟友の参加数が減少し、時間とお金のかかる活動はしにくくなってきました。参加人数が減少した理由を

大きくまとめました。

▼我が家の仕事が忙しい。

▼青壮年部活動費削減に伴い、活動を自粛せざるを得ない。

▼青壮年部活動に興味がない、使う時間がない。

このことを踏まえて、もっとポジティブな考えに切り替え、盟友が「参加したくなる」活動を考えなければならない時期にきました。まずは毎月行われた役員会を廃止、盟友全員による全体会議を行うことにより、各種行事の策定と参加人数の把握を行い、主に次の行事活動をしていくことになりました。

- ①環境美化作業
- ②小学校の農業体験
- ③モーモーフェスタへの出店
（阿蘇中部家畜品評会）
- ④一の宮畜産品評会の共催
- ⑤阿蘇神社祭典での農産物販売
- ⑥収穫感謝祭

環境美化作業は年数回の活動は決まっていたのですが、場所と日時は未定で全体会議を行うなかで、内容については主に河川敷や農道の交差点付近と耕作放棄地の減少を目的にしました。集落営農化が進み、減反地には大豆やそば、飼料用米等が作付され、減少しています。それでも、一の宮地区には耕作放棄地が結構な面積があり、又、見渡せば河川敷や農道沿いには、伸びきった雑草の場所が結構あり、見通しが悪く痛ましい交通事故が起きた農道も

何ヶ所あります。子どもたちの通学路に於いては、不審者の出没場所もあります。「もし盟友でこういった所の除草作業を行えば、立派な地域貢献になりはしないだろうか?」、盟友の意見を聞き、次の通りに決まりました。

▼日程 6月と9月第1週

▼時間 夕方6時から1時間程度

まとめると、とてもシンプルな活動計画になりましたが、この環境美化作業で大事なのは何時間作業するかと言うことなのです。

もし、盟友達で1時間刈り払い機を振り、ゴミを拾えば十分な距離が作業できるのではないのでしょうか? 毎月1時間、年間12時間にしかりません。泊まりがけの研修を1回減らしたとしても、盟友達の農作業には、無理なく参加できます。終了後、懇親会を行う中で若い盟友からは「OBの方の作業は早くてきれい」や、「久しぶりに倉岡さんと話が出来て楽しかった」など、いつもは、同じ農業のフィードであったも、業種が違う盟友同士の会話が、でき、絆は深まりました。

小学校の農業体験も長年に亘り行っている行事で、当初は農業体験よりも稲の観察記録を行いたいと先生からの要望もあり、校庭内に急増の田んぼを作りました。小学校5年生の子供達が5月上旬に泥まみれになりながら田植えを行い、稲の生育過程を観察しながら、9月下旬の稲刈りには汗を流しながら、食と農について学んでいましたが、やはり急造の田ん

ぼです。後日、子供達が炊いたお米の味はあまり美味しくなく、取れた玄米の量も少ないので、現在は小学校近くにある盟友の田んぼを借りて行っています。しかし、昨年の九州北部豪雨災害によって、モーモーフェスタの出店・一の宮畜産品評会は中止となってしまいました。一晩降り続いた豪雨は、阿蘇乙姫観測地点で総雨量816・5ミリ(最多時間雨量108ミリ)と言う、気象庁は初めて「これまでに経験したことのないような大雨」と言う表現で気象情報を発表しましたが、多数の人命と建物が失われ、農地は水没してしまい、朝から私が出山崩れで被災した民家から見た風景は、黒川河川敷から南へ水田やハウスが水没し、湖になっていました。

阿蘇市内の農地面積3850ha内2068haが被災、農業用施設に措いても1156件約100億円が被害に遭いました。住居地域は次の日から多くのボランティアが来られ、災害復旧が始まりましたが、農地、取分け、ハウス施設に入った土砂の搬出は簡単に行くはずもなく、復旧作業には延べ1400人の方が参加され、県下のJA職員・JA連合会職員・農機具メーカーの社員等の方々と、JA阿蘇常勤役員・職員や女性部・青壮年部各支部の盟友が作業をして貰えるとともに、県青協善積委員長をはじめとする県内青壮年部の盟友が、被災ハウスに復旧ボランティアとして参加していただき、私は「能力や言葉じゃない、人を支えるのは誰かがそこにいてくれる」とい

う、その事実なんだ」を感じると共に、感謝の言葉で一杯になりました。

今後の課題と展開について

現在、ポリシープック策定については、一の宮支部と阿蘇町支部で合同のポリシープックを作成し、地元自治体である阿蘇市長に提出しましたが、災害を機に私たちが出した政策提言が阿蘇市でどのように活用され、他のところで不備や新たな政策ができるのか、来年の改訂へ向けて準備行っています。

阿蘇地域は今年5月に世界農業遺産に認定されました。現在、世界農業遺産に認定されている日本国内の地域は、新潟の佐渡、石川の能登、静岡、大分の国東の5ヶ所があります。阿蘇地域においては「阿蘇の草原の維持と持続的農業」が評価されました。

今からお見せする動画は9月26日に熊本県提供による熊本朝日放送で放送された「くまモン調査隊」です。この放送で世界農業遺産の説明がされているとともに、青壮年部の犬飼部長が出演しました。しかし、この世界農業遺産については地元住民の関心があまり高くなく、今後、数多くのシンポジウム等を開催しながら啓発活動を行い、地域の方に関心を持って頂くと共に、この事が1つの起爆剤としての宮支部の行事活動に分岐点を見いだす事と、新たに阿蘇神社の祭りに農産物販売の出店を行ないました。

また、昨年よりJA阿蘇ウォーキング大会が開催されるにあたり、青壮年部はウォーキ

ング大会参加者には芋天を振る舞います。また、10月26日に一の宮中央支所と女性部と共に、収穫感謝祭を行う事になりました。

目的としては、豊かな実りへの感謝と生産者と消費者の交流、そして阿蘇農業の重要性や農業・農村の果たす多彩な役割を考える機会として「次代へつなぐ協同」、中央支所を拠点とする地域への貢献を行なうべく、青壮年部は収穫感謝祭に來られた方に芋天・揚げたこの販売をしますので数多くのお客様へお越しいただきたいと思っています。

長年行ってきた小学校での農業体験・モーモーフェスタの出店、一の宮畜産品評会においては継続する力は一定の成果は出しています。が、昨年の災害があり、一人の力では限界があり、今年も気象異常の中、全国各地では集中豪雨が多発しています。JA組織、青壮年部盟友においてはその限界を打破する力をもっており、一の宮支部は昨年の災害を糧にして、今後の活動において『みんなで同じ方向を向き、協力して物事にあたる』この事は初歩であり、盟友の意識統一を行い更なる飛躍を目指しながら、組織活動を展開していきます。



組織活動実績を発表する
田端伸吉さん

JA阿蘇「阿蘇南高森支所」 JAカード店舗で 全国13位入賞



工藤組合長より工藤支所長に表彰状が授与
(平成25年10月30日撮影)

JA阿蘇の阿蘇南高森支所は9月5日、ホテルニューオータニ東京で行われた「平成24年度JAバンク優績店舗表彰・JAカード店舗表彰」で表彰されました。

この表彰は平成24年度に特に優秀な取り組みを展開した全国のJAバンク134店舗と、JAカード利用普及で実績を挙げた50店舗を表彰したもので、JA阿蘇からは阿蘇南高森支所がJAカード店舗表彰で全国13位ということで入賞しました。

第9回理事会において、工藤組合長より阿蘇南高森支所に表彰状が授与されました。

女性部のパワーをさらに発揮して、地域づくりにも貢献しよう！

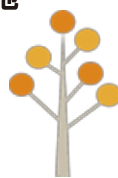
「第11回JA阿蘇女性部フォーラム『家の光大会』」が11月21日、ホテル角萬で開かれJA関係者ら230人が参加しました。開会に先立ちオープニングセレモニーとしてマリンスポーツクラブ健康館によるフラダンスが披露され、華やかな踊りに会場が一気に盛り上がりしました。9月に開催した「加工品コンクール」表彰式も行われ、栃原清子女性部長より最優秀賞の川藤せい子さんら6人に表彰状と記念品が贈られました。また「家の光」普及活動では蘇陽支部と南阿蘇支部、



フォーラムの参加者↑

挨拶する栃原部長→

JA阿蘇女性部フォーラム開催
「加工品コンクール」表彰
「家の光」普及活動発表など
盛りだくさんのプログラム実施



↑加工品コンクール表彰式で最優秀賞を受ける川藤さん

オープニングのフラダンス→

「ちやぐりん」普及活動では高森支部と高森支部フレッシュミズに家の光協会から感謝状が贈られました。主催者挨拶で栃原部長は「現在の農業は多くの課題を抱え大変厳しい状況に置かれている。このような時こそ女性部のパワーを発揮して積極的に活動し、地域づくりに貢献していきたいましよう」と述べました。恒例の「ちやぐりん感想文」発表（本紙12ページに掲載）



講師の萬野保子さん↑

写真左上=ちやぐりん感想文を発表した小堀さんと大倉くん

写真左下=活動の成果を展示

では、小国小4年の島田慶次郎くん（当日、都合により欠席）、阿蘇小4年の大倉靖萌くん、久木野小の小堀ゆりあさんが受賞。ステージで朗読すると大きな拍手を浴び、栃原部長から表彰状と記念品が贈られました。活動発表では阿蘇・一の宮・小国郷の各支部が日頃の体験や活動内容を語りました。講演では萬野保子さんが「明るく元気な女性」という演題で、これまでの貴重な体験や全員で童謡の歌詞を入れ替えて歌うなど賑やかな講演となりました。

「2013 JA阿蘇総合展示会」 前年比108%を売り上げる！



総合展北部会場テープカット

JA阿蘇では「2013 JA阿蘇総合展示会」を10月末より順次3会場で開催しました。この展示会は農業を取り巻く環境がますます厳しさを増している中、組合員とのふれあいを更に深め、地域社会に喜ばれる事業展開を広げることが目的に開かれたものです。

3会場での会期中、2000人の来場者があり4350万円の売り上げ（前年比108%）となりました。今後ともJAでは生活用品においても良質で安価な商品に取り組み、生活事業の拡大を図る計画です。



総合展南部会場の様子

生産各部会の《出荷・査定会・生育》状況

白水メロン部会

甘くて美味しい「秋メロン」
10月中旬まで九州管内へ出荷



JA阿蘇白水メロン部会では秋メロンの出荷を9月下旬より始め、10月初旬に出荷最盛期を迎えました。

平成25年夏季は気温が高くネットの張り方が荒くなることが懸念されましたが、ネットの張り方や味・品質は例年に負けない出来となりました。白水メロン部会の秋メロンは品質・糖度ともに良好で市場より高い評価を得てきました。しかし、近年は価格低迷などにより年々作付面積と生産者が減少し、当年産は作付面積52a、生産者2人となっています。

販売担当の森谷峻職員は「期待以上の大玉で糖度も15度以上あり、美味しく、安全安心のメロンを消費者へ届けることが出来た」と自信のほどを語っていました。同部会はポジ

ティブリスト制度を遵守するとともに

消費者の手に渡っても生産者が特定できるような生産者番号入りのシールを1玉ずつ貼って出荷しています。

出荷は10月中旬まで行われ、約3000玉が産地直売分も含めて九州管内に出荷されました。

(写真上) 出荷前の検査を行う担当職員
平成25年10月2日撮影

中部イチゴ部会

県内先頭を切り出荷始まる
5億1000万円を見込む

中部イチゴ部会は10月28日、9月に定植を終えた高冷地イチゴの出荷を県内先頭を切り阿蘇町野菜集荷場で始めました。13年度は栽培面積9.5ha（前年対比97%）に「さがほのか」と「紅ほっぺ」を8月下旬から定植。天候にも恵まれ順調に生育してきました。

同イチゴはJA阿蘇の中でも上位の作付面積を誇り、寒暖の差があるため肥培管理が難しい一面があります。特産高冷イチゴとして食味は申し分ありません。現在、中部イチゴの生産者は41人、出荷量300gパック入り200万パックで、販売高は4億円を計画しています。出荷は平成26年6月下旬まで予定されています。

販売担当の甲斐稔久職員は「今年は

中部・南部イチゴ部会

品質向上・収量アップを第一に
中部・南部合同出荷査定会

JA阿蘇中部・南部の両イチゴ部会は11月15日、阿蘇市で2013年度イチゴ出荷査定会を合同で開き、生産者や行政・JA・市場関係者ら約80人が出席しました。

宮本陽一生産協議会長は「初の取り組みである中部・南部の合同査定会と市場への二元集荷、一元販売を各部会で決定し、生産協議会で出荷企画等を調整してきました。今後、作付面積や



例年になく晩秋からの冷え込みになつていため食味は申し分ない。今後の収量に期待し思い切った販売をしたい」と抱負を語っていました。

(写真右) 出荷前の検査を行う担当職員



挨拶をする宮本陽一生産協議会長
次頁に査定会出席者の写真を掲載

出荷量が減少していく中、このような取り組みをして出荷ロット数を増やすことで、安定供給・販売強化を目指していきます」と挨拶しました。

今年度の阿蘇イチゴ1元販売に向けた戦略重点事項として、「品種特性を活かした販売戦略の構築」「安定供給に向けた取り組み」「安定販売と総合的な企画提案」等の説明を行いました。また、生育状況報告や出荷規格説明なども行いました。今年度は両部会の生産者56人で2品種（さがほのか・紅ほっぺ）を栽培、作付面積12.6ha（対前年比93%）、出荷量172万パック（1パック270g）、5億1000万円の販売金額を見込んでいます。



前ページより続く



JA阿蘇中部・南部イチゴ部会合同
出荷査定会に参加した生産者の皆さん

2013年産イチゴ生育状況確認 平成25年内の出荷は潤沢 出荷ピークは12月上旬

JA阿蘇は11月初旬、市場担当者
と仲卸業者による2013年産イチゴ
の生育状況確認を行いました。この生
育状況確認は昨年より行われており、
年内の出荷ピーク予想や今後の出荷
パターンについて、JA阿蘇の担当者
と意見交換を行い年内需要期の販売
に繋がっています。JA阿蘇管内の中
部・南部両地区のイチゴ生育状況を確
認した市場担当者は「年内需要期の品
質維持に努め頂いている」と、年内出
荷に期待をしていました。

指導担当の後藤真智職員は「どの産
地も潤沢な出荷予想が立てられてお
り、今後とも品質維持に努めて、需要
期に選ばれる産地を目指し、栽培管理
にも重点を置いていきたい」と、力強
く語っていました。

2013年産においては、中部・南
部地区における二元集荷一元販売を
実施し、販売ロットの確保及び重点市
場への出荷数量強化を目指していま
す。また年内需要期前にはソフトト
レーによる出荷数量を増やし、業務筋
への販売に力を入れる計画となってい
ます。



(写真右)生育状況を確認する
市場担当者(平成25年11月6日撮影)



久木野自然薯部会

「お歳暮に大好評！」
赤土育ちの自然薯

JA阿蘇久木野自然薯部
会では、2013年産の自
然薯出荷を12月より本格的
に始めました。同部会は20
数年前から栽培を始め、高
品質で粘りのある自然薯に
多くの顧客を増やしてきま
した。

現在、生産者は9人、栽培方法はバ
イプの中に赤土を入れ自然に近い状
態で安定供給に努めています。

13年産は植え付け後の天候不順や
肥大型の降雨により、前年よりも出荷
数量は少なくなる見込みですが、品質
については例年並の出来となっています。

近年は県内外の消費者からの注文
も多く、遠くは関東からも注文が来て
います。年末時季にはお歳暮商材とし
ても用され、自然薯をもらったお客さ
んからの問い合わせも年々増えてい
ます。

ちなみに、価格はキロ当たり200
0円ほどで「むかこ」付きとなってい
ます。

(写真右)出荷準備OKの自然薯



JAの信頼と実績

シロアリは一年中活動しています

床下無料調査実施中

シロアリ防除はJAへ

多彩な地域活動を繰り広げる ◇◇◇ JA阿蘇女性部

●手作りフレームカード

「意外と簡単に作れました！」



フレームカード作りに参加した皆さん

女性部南阿蘇支部役員の皆さんが9月27日、家の光付録を参考に「フレームカード」を手作りしました。参加者の一人は「意外と簡単に作れました」と感想を述べていました。

●踏み台体操で元気な体づくり

「ロコモ」予防にも効果！

女性部南阿蘇支部の健康教室が、平成25年6月から10月まで計9回開かれました。踏み台を使った体操はロコモ予防にも大きな効果があり、JA熊本厚生連保健師の高橋優さん指導のもと、参加者22人が音楽に合わせて健康

体操などで毎回汗を流しました。参加者の一人は「忙しい時期だったが、参加して体を動かすことで膝の痛みなども和らぎます」と話していました。

担当の瀬井真美職員は「農閑期になる冬にも体を動かす機会を作って、一年を通して健康な体づくりをしていきたい」と抱負を語っていました。



ロコモ予防にも効果ある健康教室に参加した皆さん

※ロコモ（ロコモティブ・シンドローム）
＝骨・関節・筋肉など体を支えたり動かしたりする機能が低下し、要介護や寝たきりになる危険が高い状態。国の介護予防・健康対策などの方針を受け日本整形外科学会が、自己診断法のロコチェックや予防運動のロコモーショントレーニング（ロコトレ）の実践を呼びかけている。

●地元栽培の花を組み合わせて秋のフラワーアレンジメント教室

は、フラワーアレンジメント教室を次年度以降も定期的に開催する計画です。



フラワーアレンジメント教室に参加した部員の皆さん

女性部南阿蘇支部は10月23日、秋のフラワーアレンジメント教室を開き、部員ら32人が参加しました。宮崎ヒサ子支部長は教室の開始にあたり、「地元で栽培されている花を知って頂くと同時に、部員同士の交流の場になれば嬉しい」と挨拶。当日は同支部の佐藤好子さんを講師にグラジオラスなど、南部地区で栽培された4種類の花を組み合わせてフラワーアレンジメ

●手芸教室で「がまぐち財布」作り

女性部南阿蘇支部フレッシュミズは11月2日、「がまぐち財布」作りに挑戦、5人が参加しました。当日は営農部の今村千春職員を講師に迎え、異なった布と布を組み合わせることで雰囲気違った財布が出来上がりました。同フレッシュミズでは、クリスマス前にはケーキ作りなども計画、部員間の交流と新たな部員確保に活動の域を広げていきたいとしています。



出来上がった「がまぐち財布」と記念撮影

スポーツの秋に元気いっぱい熱い戦い繰り広げられる!

●牛乳パックで椅子作り
年金友の会会員さんにも大好評!



椅子作りに再使用した牛乳パック

女性部南阿蘇支部は11月7日、支部役員で牛乳パック再利用の「牛乳パック椅子」を作りました。昨年、作成した牛乳パックの椅子を年金友の会の会員さんに配布して大変好評だったことから、今年も作成しました。参加者の一人は「生地を縫うのが大変だが、牛乳パックの椅子を楽しみに待たれている方もいるので頑張って作りました」と感想を述べていました。

役員会では部員の皆さんにも紹介し、さらに交流の機会を広げたいとしています。

優勝は「今町3」チーム 年金友の会ゲートボール大会

JA阿蘇年金友の会は11月9日、阿蘇市のグラウンドで「年金友の会親善ゲートボール大会」を開催しました。今年は阿蘇管内から22チーム113人の会員が参加。開会式では選手を代

JAバンク熊本・年金友の会 親善グラウンドゴルフ大会



2位の末藤さん(左)と3位の坂梨さん

「第15回JAバンク熊本・年金友の会親善グラウンドゴルフ大会」が11月13日、パークドーム熊本で開かれ県内JAから500人が参加しました。この大会は熊本県内のJA年金友の会組織の拡大を図るとともに、会員相互の親善と融和を深めることを目的に毎年開催されています。JA阿蘇からも地区予選を勝ち抜いた43人が参加

しました。

試合はA・Bブロック4コートに分かれ行われ、各選手の皆さんは日頃の練習成果を発揮し熱戦を繰り広げました。競技の結果、Bブロックで阿蘇町の末藤政直さんが2位、坂梨文雄さんが3位に入賞しました。



年金友の会親善グラウンドゴルフ大会開会式



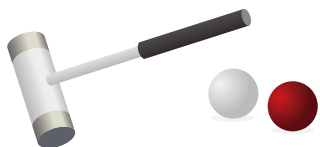
表し波野チームの丸山武重選手が元気に選手宣誓を行いました。競技の結果は、優勝「今町3」、準優勝「南阿蘇1」、3位「草部」の各チーム



写真上=選手宣言をする丸山武重さん
写真下=優勝した「今町3チーム」



年金友の会ゲートボール大会プレーの様子



JA阿蘇の地区予選を勝ち抜いた選手の皆さん

『ちゃぐりん感想文』

『ちゃぐりん感想文』受賞作から

「未来をつくるきみへ」を読んで

小国小学校4年 島田 慶次郎

「宇宙飛行士にもなつてみたい。」

読んですぐそう思いました。なぜかという、若田さんのように無重力を体験してみたいと思ったからです。

若田さんが子どものころ夢中になったのは、も型飛行機を作つて飛ばすこととして、つい落としたらまたしゅう理して飛ばすことだつたそうです。ぼくは、自分では作れないし、しゅう理できないしやつと飛んだのにしゅう理をするなんて大へんだと思いました。若田さんは、子どものころにこういうことができていたからすごいと思いました。

宇宙飛行士こうほになつてからは、英語での会話が理解できなくて苦労したときには、会話を録音し、車の中で何度も聞き返したそうです。苦手なことも工夫してやっているからすごいと思いました。

若田さんは、3回も宇宙にいきしかも3回目は、百三十七日間も宇宙にいたことができていいなあと思つたすごいと思いました。もしぼくが若田さんのように宇宙にいけるとしたら、無重力でキャッチボールやサッカーをしてみたいです。ボールがどうなるのかサッカーは、宇宙でできるのかを知りたいからです。

若田さんが言つた言葉の中で3つが心にのこりました。1つ目は、必要な道具がお

のずとわかつてきます。失敗がこわいから

目標を持ちたくないという人もいるかもしれない。2つ目は、自分のめざす道をつねに

持ちつづけることです。失敗してもいい。ただ2度同じ失敗をしないように気をつける。

3つ目は、夢にたいして「あらめる」ということをしてはいけない。けつしてあきらめることなく進んでいけばきつと夢は実現できる。ということでした。ぼくはこの言葉から夢は、あきらめないことや失敗をおそれることはないことを学びました。

「ちゃぐりん」を読んで

阿蘇小学校4年 大倉 靖萌

ぼくは、ちゃぐりんの中から、水のことを書いてあるところで書きました。ぼくは、すぐくびつくりしました。きれいな水を使いたい、とつたえるような写真ものつています。

なぜ、同じ人間なのに国がちがうだけで、つらい思いをしながら生きている人達が多いのでしょうか。

もし、同じ学校に世界の子がいるとしたら、ぼくは、水にこまつている子たちに、きれいな水をわけあたえてあげたいです。このことから、みんなが幸せにくらすためには、助け合うことが大切だと思います。きれいな水をわけあたえるとき、電車の中で、子どもが売っているものを買つて、お金をもうけさせてあげるなど、いろいろなことできよう力したいです。

ぼくは、日本に住んでいるから、世界の本

当の苦しみを知らないけど、ラオスに住んでいる男の子が、ふだん飲んでいる水を見て、すぐききたなかつたので、水に苦しんでいるのは、わかつた気がします。

そして、自分にできることは2つあるます。1つ目は、ペットボトルのふたを集めることです。お母さんから聞いた話で、ペットボトルのふたを集めているお店にふたを持っていくと、リサイクルされて、まづしい国の子どものために、ワクチンにかえられると聞きました。なので、ペットボトルのふたを、たくさん集めてお店にもつていこうと思います。

2つ目はユニセルほきんにきよう力することです。コンビニなどにおいてあるのをよく見ます。ぼくは世界の子ども達に役立つお金だと思うので、自分のお金で自分の力で、世界の子どもを救つてあげたいです。この2つのことをいしきし、水の使いすぎにも注意したです。

ぼくが、大きくなつたら、ラオスにいつて、水をきれいにするぎじゅつで水をきれいにしたいです。

『元気いっぱいちゃぐりん』

久木野小学校4年 小堀 ゆりあ

わたしは、チャグリンの中の『神わさくく』のマンガが毎月たのしみです。それは毎月料理のレシピがしょうかいされているからです。手作り料理で毎回登場人物を元氣

にさせたり、ケンカをしてたらかなおりさせたりと人の心をうれしくさせるところがわたしは大好きです。

8月号では、真つ赤なトマトで作る「ガスパチヨ」がしょうかいされています。トマト、赤パプリカ、ニンジン、ニンニクをミキサーでくだいて、レモンじる、オリブオイル、しおコシヨウを入れてさらにミキサーにかけてトロトロにしてキリツとひやして食べる料理です。

わたしとお母さん、おばあちゃんと作りました。トマトを畑からとつてきてくれたのはおばあちゃん。野菜を切るのはわたし。ミキサーをするのはお母さんでした。みんなで作つたのが楽しかつたです。

その日の夕食にわたしの作つた「ガスパチヨ」も出てしました。そしてみんなに食べてもらいました。「おいしい」とおじいちゃん、おばあちゃん、お母さんが言ってくれました。「暑い日が続く日はスナミナがついていいね」「タバスコを入れたらもっとおいしくなるね。」と言つてました。おばあちゃんは「いつも作る野菜ジュースとにているね。」と言つてました。お母さんは「ゆりあが作ってくれた料理は何でもおいしいね。」「元氣が出てくるばい。」と言つてくれました。家族みんなが言ってくれた言葉でわたしの心もマンガとついでうれしくなりました。

また今度もマンガに出てくるレシピとおばあちゃんが育てた野菜を使つてわたしの手作り料理を出したいです。そして家族みんなをえ顔で元氣にさせたいです。

「まるごと あそっ子 スクール 活動報告！」

収穫の喜びを体験！「あそっ子らが稲刈り」

「まるごとあそっ子スクール」3回目の活動が10月12日、あそっ子とその保護者30人が参加して行われました。今回は5月にあそっ子らが田植えした田んぼで稲刈りをしました。最初に刈り方と脱穀の説明を受けた後、あそっ子らは一斉に稲刈りを始めました。前日からの風雨で大部分の稲が倒れていましたが、あそっ子らは保護者やスタッフと協力し合って稲を刈り取っていました。途中で野ネズミの巣を見つけて大騒ぎする場面もありました。あそっ子らは「前は稲刈りができなくて残念だったけど、今回、稲刈りができて本当によかったです」と笑顔で話していました。



みんなで一斉に稲刈り

野ネズミを捕えた!!



野ネズミの巣



稲刈りに参加したあそっ子と保護者、JAスタッフの皆さん

あそっ子ら「豆腐作り」に挑戦！

11月14日、4回目の活動がありました。今回は学校行事が重なったため、参加者が少なかったにもかかわらず、みんな元気に初の試み豆腐作りに挑戦しました。最初に高森町の住吉りえ子さんの説明を受け、作業に取り掛かりました。先ず一晩水につけた大豆を石臼でひきました。最初は石臼が重くて回すのに苦労しましたが、大豆がひかれると軽くなって2Kgの大豆をひきました。そして、その大豆を煮込んで布袋に入れて絞って豆乳を作り、「にがり」を入れて固まるまで20分ほど待ちました。浮いてきた豆腐の塊をすくって型に入れ、水分を取ると見事な豆腐が出来上がりました。あそっ子らは歓声をあげ、豆腐は昼食時にみんな笑顔で試食しました。



石臼で大豆をひきます!



大豆をしぼってます

「にがり」を入れて固めます



固まった豆腐を型に入れます



出来上がった「豆腐」



地域社会の絆とふれあいを大切に、これからも地域社会と共に歩み続ける「JA阿蘇」

農業フェアに「JA阿蘇営農部」出店

JA阿蘇営農部は11月9・10日、合志市の熊本県農業公園カントリーパークで開かれた「2013くまもと農業フェア」に出店しました。JA阿蘇ブースでは、西原産の甘藷を使った「甘藷天ぷら」や乳製品・野菜の販売を行いました。

1日目は晴天、2日目はあいにくの天気となりましたが、人出も多く大盛況となり、会場の一角に設けられた「農の生花」展示は、JA阿蘇女性部が阿蘇の風景をイメージした作品で、次々と来園者が立ち止まり見入っていました。

ステージイベントでは、キッズスクール対抗「食農クイズ大会」や、青壮年部の久木野太鼓保存会による「雨乞い太鼓」が披露され、その勇姿に観客は魅了されていました。また女性部の「ふるさとたずね旅」ダンスが披露されると、その容姿に会場は爆笑の渦に包まれました。



JA阿蘇女性部
「農の生花」

大人気の
JA阿蘇ブース



久木野太鼓保存会
「雨乞い太鼓」

食農クイズ大会



女性部ダンス
「ふるさとたずね旅」



晩秋の阿蘇をまるごと満喫！ 「まるごと阿蘇ウォーキング2013」開催

JA阿蘇は10月26日、「まるごと阿蘇ウォーキング2013」を開催しました。同イベントは「健康寿命100歳プロジェクト事業」の一環として、今年で2回目の開催となりました。ウォーキングは、一の宮町の「四季彩いちのみや」を発着点に昨年と同じ5kmコースと、今年は国造神社や中通古墳群を巡る10kmコースが新設され、県内から117名が参加しました。主催者を代表し、JA阿蘇の工藤保雄組合長が「多くの方々に参加して頂き大変感謝しています。秋深まる阿蘇の大自然を満喫してウォーキングを楽しんでください」と挨拶。宮地保育園のカラーガードと古城小学校の太鼓演奏で10km、5kmと次々に出発しました。阿蘇谷の田園地帯や国造神社、中通古墳群と阿蘇神社近くの門前町を通るコースを参加者らは元気に歩き、全員が笑顔でゴールしました。参加者には女性部スタッフからおにぎりと豚汁が振る舞われました。

当日は、一の宮中央支所の「収穫感謝祭」も同時に開催され、様々な催し物が出展され、「それいけアンパンマンショー」や「ナニコレ劇団ストリートパフォーマンス」などのステージイベントも行われ、大変な賑わいをみせました。



和気あいあい、和やかに
ウォーキングのスタート

5kmコース出発！



「甘藷天ぷら」は
こちらでも大人気



一の宮中央支所の
「収穫感謝祭」も同時開催！



アンパンマンと記念撮影



保育園児による
カラーガード

多彩なプログラムで大いに盛り上がった西原村、小国郷の地域祭！

西原村ふれあいまつり
農産物や農産加工物の展示即売会
甘藷や里芋の品評会などで賑わう



盛り上がった多彩なステージイベント



大好評だった農産物の展示・即売会

西原村の農業・福祉・文化活動などの様子をもっと知り、そして参加体験する祭典「第14回西原村ふれあいまつり」が11月17日、西原中の校庭をメイン会場に開催されました。

当日は小雨で客足が心配されましたが、会場の特設テントでは農産物や農産加工物の展示・即売会や、甘藷や里芋の品評会、農機具・自動車の展示会なども行われました。また特設ステージでは、こども夢運太鼓、教育フォーラム、からいもダンサーズのパフォーマンス、豪華おたのしみ抽選会など多彩なイベントが繰り広げられ、多くの人で賑いました。

小国郷収穫感謝祭
野菜大鍋などに長蛇の列！
大人気のスコップ三味線、俵担ぎ



JA阿蘇女性部によるスコップ三味線

JA阿蘇小国郷中央支所は 11月23日、野菜集荷場で第13回収穫感謝祭を開き、農産物販売のほか多彩なイベント



賑わった販売コーナー



大きな歓声が沸いた俵担ぎ



小国高プラスバンド部の演奏

トを催し約750人の来場者で賑わいました。会場ではJA職員による各種バザーや青壮年部・女性部・生産部会らによる地元農産物をふんだんに使った野菜大鍋・阿蘇王の販売コーナーなど多数設けられ、大勢の客が押し寄せ長蛇の列が出来ていました。

特設ステージでは女性部のスコップ三味線、小国高校プラスバンド部による演奏などが披露され、俵担ぎ大会では力自慢の男女が参加し男性60kg・女性45kgの俵を担ぎ、会場からは大きな声援と拍手が沸き上がっていました。

「久々、いい汗かきました！」
役職員交流会でミニバレー大会

11月30日、長陽体育館でJA阿蘇役職員互助会の主催でミニバレーボール大会を行いました。同大会は、役職員の親睦と融和を図ることが目的です。大会には各中央支所から39チーム、281人の職員が参加。試合は6パートに分かれ行われ、各コートではそれぞれ白熱した試合が繰り広げられました。

試合の結果は次のとおり。

- Aパート優勝Ⅱ 蘇陽A
- Bパート優勝Ⅱ 長陽A
- Cパート優勝Ⅱ ヤマト(阿蘇町)
- Dパート優勝Ⅱ 西原A
- Eパート優勝Ⅱ TEAM祐子(一の宮)
- Fパート優勝Ⅱ グリーン一の宮



ミニバレーボール大会開会式

理事会・監事会報告

■平成25年度第9回理事会

日 時 平成25年10月30日午後1時30分
一の宮中央支所会議室

1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項

委員会報告（経済専門委員会）

平成25年度上期決算実績報告について

- 1) 出資減口について
- 2) 特殊業務手当改正・追加（LPガス関係）について（案）
- 3) 役員等定数検討について

報告事項

- 1) 平成25年度上期決算監事監査について
 - 2) 平成25年度全国監査機構財務諸表等監査（期中監査）について
 - 3) 平成25年度上半期内部監査実施状況報告について
 - 4) 平成25年度JA阿蘇不祥事未然防止のための行動計画
25年9月末進捗状況について
 - 5) 平成25年度JA阿蘇コンプライアンス・プログラムの進
捗状況について（9月末）
 - 6) 組合員の加入及び脱退の状況について
 - 7) 理事会日程変更について
 - 8) JA阿蘇活動総合3力年計画の25年9月末進捗状況について
 - 9) 不祥事再発防止策取組状況（9月分）報告書について
 - 10) 平成25年度産米集荷状況について
 - 11) 平成25年度余裕金運用状況について
4. 閉会

■平成25年度第10回理事会

日 時 平成25年11月25日午後1時30分
一の宮中央支所会議室

1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項

委員会報告（経済専門委員会）

10月末実績報告について

- 1) 固定資産取得について
- 2) 南部地区給油所について
- 3) 職員年末賞与について

報告事項

- 1) 農林中金からの劣後ローン借換要請について
 - 2) アンパンマン交通安全キャラバンの実施について
 - 3) 県内経営不振JAの熊本県JAグループの対応について
 - 4) 水田農業をめぐる政府・与党・JAグループの考え方について
 - 5) 不祥事再発防止策取組状況（10月分）報告書について
 - 6) 要改善JAの指導区分の変更（指導区分「O」）について
4. 閉会

■平成25年度第7回監事会

日 時 平成25年10月18日午後1時30分
本所2階第1会議室

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題

- 1) 平成25年度米麦等棚卸監査回答書について
- 2) 平成25年度上期決算監事監査事務手続きについて
- 3) その他

・監事監査報告書の留意点

報告事項

- ①常勤監事業務報告について（9月）
常勤監事日常監査報告について（9月）
 - ②常勤会議報告について（第13回、14回）
 - ③行事予定について
4. 閉会

■平成25年度第8回監事会

日 時 平成25年12月6日午後1時30分
阿蘇町中央支所会議室

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題

- 4) 平成25年度上期決算監事監査とりまとめについて
- 5) 平成25年度導入家畜等棚卸監査実施要領（案）について
- 6) その他

報告事項

- ①常勤監事業務報告について（10月、11月）
 - ②常勤会議報告について（第15回、16回、17回）
 - ③行事予定について
4. 閉会

